

科の説明

呼吸器内科は呼吸器疾患、特に肺癌・びまん性肺疾患などを中心に診療を行っています。肺癌はわが国における癌死亡原因の最多を占め、さらに増加傾向にあります。また、呼吸器疾患には肺癌以外の腫瘍性肺疾患、肺結核・肺真菌症などの感染性肺疾患、びまん性肺疾患（間質性肺炎など）、アレルギー疾患、易感染患者の日和見感染症や膠原病肺など他疾患の合併症など多彩な病態があります。呼吸器疾患を通じて、多彩な病態の理解、診断・治療、全身管理を経験・研修することは将来呼吸器科医を目指す方だけでなく、他科を志す方にとっても、良い機会になると思います。

一般目標

肺癌治療を行うにあたり肺癌の組織型や stage のみならず、患者さんの希望や状態を加味した上で最適なる治療を検討し、手術・放射線・抗癌剤治療だけに限らず疫学・診断・緩和の領域にも精通することが求められる。特に抗癌剤治療は手術や放射線治療と同様に重要な治療と考えられるため、常に診療と臨床研究をバランス良く検討・実行する事が重要である。

行動目標

- 1) 呼吸器疾患・肺癌に関する疫学、診断、治療、ケアの基礎を理解し、実施し、患者の全身管理、生活指導ができる。
- 2) 気管支鏡検査の妥当性・安全性・危険性を説明し患者さんの不安を軽減できる。
- 3) 予測される症状・無治療での自然経過・抗癌剤の作用機序・抗癌剤の投与量や期間の意義・奏効率と生存期間の意義について理解し説明できる。

経験目標

- 1) 適切な病歴聴取ができ、系統的な身体所見がとれる
- 2) 胸部X線写真の読影の基本を習得する
- 3) 胸部CTの適応と読影の基本を習得する
- 4) 動脈血液ガス分析,呼吸機能検査,喀痰検査,胸水検査,6分間歩行検査の適応・結果の理解
- 5) 肺癌のstaging、治療方針、治療効果判定ができる
- 6) 中心静脈カテーテルの挿入、気管内挿管、胸腔穿刺・ドレナージ、気管支鏡検査ができる
- 7) 適切な酸素投与ができる

- 8) 抗癌剤の特徴を理解し、正しい投与と副作用への対応ができる
- 9) WHO 方式のがん疼痛療法を理解し、それに基づいた鎮痛薬処方、疼痛管理ができる
- 10) 間質性肺炎の分類とガイドラインを理解し、治療計画を立てられる
- 11) 人工呼吸器の基本的なモードと設定を理解し管理ができる

指導体制

- 1) 外来および病棟において通常遭遇する呼吸器疾患、感染症、腫瘍疾患の診療にあたり、入院については、症例が片寄る事なく、均等に担当できるよう指導医がわりあて、副主治医として診療にあたる。
- 2) 救急患者の診療については、指導医・研修協力医とペアになり、当番となった夜間・休日の診療を担当する。

週間スケジュール

	午前	午後	時間外
月曜日	外来	外来、回診	18:00～新患紹介
火曜日	外来（呼吸器教育回診）	外来、回診	（8:30～呼吸器検討会）
水曜日	病棟回診	気管支鏡	
木曜日	外来	外来、回診	
金曜日	病棟回診	気管支鏡	

定例研修会等

会名	世話人	開催曜日	会場	実施回数
血液腫瘍セミナー	中瀬一則 影山真一	木曜日	津	年2回
伊勢志摩呼吸器疾患懇話会	徳井俊也	水曜日	伊勢	年3回
癌チーム医療研究会	中瀬一則	土、日	津	年2回

具体的な研修方法・留意事項

- 1) 研修医は、受け持ち患者の診療状況を常に指導医・研修協力医に報告し、病状の把握に独断のないよう努めること。必要とあれば、他科の指導医にも躊躇なく指導を受けること。
- 2) 基本的に研修医は病棟で受け持ち患者を持ち、研修を行うが、外来患者や救急患者の診察も指導医・研修協力医の元で行う。
- 3) Essential Minimum に力点をおいた研修を行う。
- 4) 研修医は定期的に行なわれるカンファレンスに出席すること。
- 5) 症例報告会、研修会、学会にも参加すること。
- 6) 化学療法・輸血療法・感染症管理・治療については病棟、カンファレンスで経験する。
- 7) 胸水穿刺、気管支鏡は症例があれば指導医・研修協力医の指導のもとに実施する。
- 8) 肺癌などの固形癌は固形腫瘍検討会などで指導医・研修協力医に指導を受ける。
- 9) 気管支鏡検査は水曜、金曜の午後におこなわれており参加すること。
- 10) 朝8時30分に内科医局に集合し担当患者を振り分けられる。
- 11) 当直明けは必要な申し送りをして帰ること。